

4・22

問われる

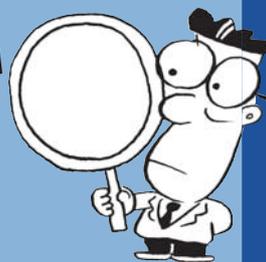
「市民の交通権」

学習会

橋下市長は

なぜ地下鉄

民営化を言うのが



●とき 2012年4月22日(日)

午後1時30分～4時(開場午後1時)

●会場 大阪民医連(地図参照)

地下鉄堺筋線「堺筋本町」
下車⑨④⑮番出口

●基調講演

土居 靖範さん

(立命館大学教授・
交通権学会前会長)



橋下市長は市営バスを「今のまま継続するのは市民のためにならない」、赤バスも「まず事業を一度リセットする」と削減・廃止をほめかしています。

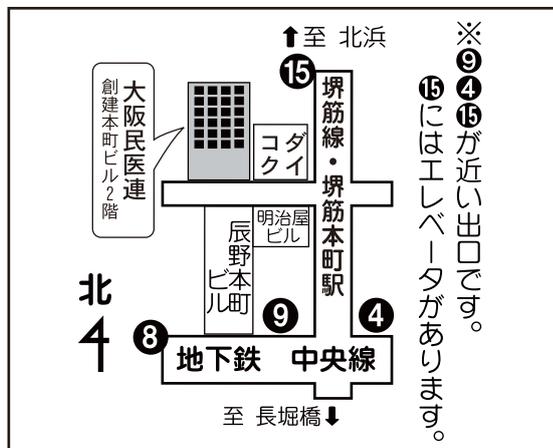
そのうえ、2005年度以来、毎年黒字経営が続き2010年度も約240億円の黒字を確保している市営地下鉄をなんと、早期に民営化すると言っています。

地下鉄は8路線、総営業キロ数は127.5km、いま建設すれば4兆円もかかります。

市民の財産である地下鉄を本当に売り払っているのか、地下鉄の地震・津波対策は？、JR尼崎事故の再来はないのか？

だれでも、どこへでも、安全・快適・自由に移動できる権利。市民の交通権がどうすれば保障できるのかなどみんなで話し合い、交通ネットワークづくりをすすめます。

多くの皆さまのご参加をお待ちしています。



《資料代 300 円、申し込み不要》

主催：大阪市営交通を守り発展させる市民の会（仮称）準備会

(全日本年金者組合大阪府本部、大阪市交通・交友会、赤バスの存続を求める市民連絡会、
全大阪生活と健康を守る会連合会、大阪市対策連絡会議、大阪市をよくする会ほか)

連絡先：全日本年金者組合府本部

大阪市北区天神橋 1-13-15

大阪グリーン会館 6F TEL06-6354-7207

e-mail o-nenkin@diamond.bforth.com

なぜ橋下市長は、

地下鉄・市バスの民営化を言うのか？

1933年（昭和8年）市営地下鉄（御堂筋線梅田～心斎橋間）が開通して来年で80年になります。総キロ数は、8路線127.5km、ニュートラム6.6kmを加えると134.1kmあり、東京について2番目です。2005年度に44年ぶりに黒字決算となって以来、毎年黒字経営が続き、2010年度は約239億円の黒字を出し、累積欠損金もなくなりました。地下鉄の黒字を赤字の市バス・赤バスに投入すれば、地域全体の交通ネットワークの整備が進み暮らしやすさが大幅にアップします。ホームの安全柵増設や震災対策にも使えます。

なのに、橋下市長はなぜ地下鉄・市バスの民営化を言うのでしょうか。ズバリ、大阪都をつくるための大阪市解体に市営交通が邪魔なのです。

学習会の主な柱は……

安全・安心

事故対策や津波対策・ゲリラ豪雨は大丈夫？

安全問題は民営化の弱点です。JR尼崎事故、近鉄青山トンネル事故、東京メトロのカーブ事故など人減らし合理化のかかわりや、安全対策が市営交通と私鉄とで差があるのかを問います。そもそも水に弱い地下鉄。東日本大震災ク拉斯の津波だと対策を誤れば全線水没となりかねません。大規模な対策予算は民営でまかなえるのだろうかも確かめます。

高齢者対策・福祉

民営化で、敬老優待バスと赤バスはどうなるの？

赤バス（＝福祉バス）は、現在21区に29路線が運行しています。交通権の行使からも改善して存続できるかどうか大きな問題です。また、大阪市ではいままも敬老優待バスを存続させています。高齢者の社会参加促進、寝たきり老人をつくらないためにも敬老バスは必要であるという世論も広がってきました。

赤バスと敬老優待バスは民営化によってどうなるかの説明もテーマになっています。

都市交通の

コントロール

市営交通があるから都市の総合交通政策が立案できる

都市交通の問題はこれまで交通局があっても市行政の外におかれてきましたが、都市交通をどのように整備・配置するのは本来、都市計画の中核になるべきもので、自治体がもとと責任をもつべきです。地域の交通政策を立案し、実現する権限と財源を地方自治体にもたせ、都市交通全体のコントロールを大阪府が発揮しないと、21世紀の都市交通再生の展望はありません。

